

段ボールのFSC®  
森林認証

レンゴー会長兼社長

## 大坪 清



リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの日本人選手が目覚ましい活躍は、いまだに記憶に新しい。

五輪の閉会式では、安倍総理もマリオに扮しPRに一役買われたが、いよいよ4年後には東京で開催されることに思いを馳せ、誰しもがわくわくした気持ちになったのではあるまいか。

戦後復興の象徴として開催された前回の東京大会であったが、2020年の次回大会では、各種競技での活躍はもちろんのこと、オリンピック・パラリンピックを契機に、環境保全をはじめとして、これからの社会のあるべき姿を創造し、日本モデルともいえるべき新た

な価値を、世界に向けて発信していくことも重要な取り組みである。その一つの動きとして、段ボールでは「FSC®森林認証」の取得が広がっている。

森林認証とは、適切に管理された森林や、そこから切り出された木材の適切な加工・流通を証明するものだが、中でもFSC®はドイツに本拠を置き、世界で最も信頼性の高い森林認証制度といわれている。

当社はその先陣を切って、昨年すべての段ボール工場と、段ボールの原材料となる段ボール原紙をつくる製紙工場でFSC®森林認証を取得し、いち早く認証製品の供給体制を整えた。

もともと段ボールは原料のほとんどを古紙が占めており、リサイクルの優等生といわれ、環境に優しい包装材として広く認知されている。しかし、第三者による森林認証を取得することで、その高い環境性能をもっと目に見える形でアピールできれば、信頼性をより高められるという利点があり、当社以外の段ボールメーカーも相次いで認証取得に動いている。

森林認証を取得するためには、原材料の調達履歴を明らかにし、認証品を明確に区分できる社内体制を築かねばならない。従業員の教育制度を整えることはもちろん、毎年審査も実施される。手数料など相応の費用負担が生じるが、森林認証を受け、それを段ボールに表示することで、環境に配慮した製品であることが消費者に浸透していけば、環境保全に対する意識もさらに高まるものと期待している。

紙は水と太陽と炭酸ガスによる

光合成で植物が成長し、その繊維を人間が活用できる状態に研究、開発された究極の財貨である。中でも、段ボールは各種商品の保管、流通の資材として活用され、使用後は古紙として資源となり永遠にリサイクルし続ける。FSC®森林認証は、それを目に見える形で身近に表現したものだといえるだろう。

リオでの陸上男子400メートルリレーでは、緻密なバトンパスと4人の強い信頼関係で銀メダルを獲得し世界を驚かせた。わが国が世界のトップランナーとして、20年、さらにその先へと見事にバトンをつなぎ、再び世界を驚かせるためには、人に優しく、暮らしやすい、豊かで持続可能な社会をつくりあげていく必要がある。

そのために、当社も事業活動を通じた環境保全をはじめとする社会的課題の解決に、トップメーカーとしての責務を果たしていく所存である。

